



各賞受賞

アンチラストテラミLS-Fが第52回「十大新製品賞」を受賞

環境に配慮した指紋除去性付与型長期さび止め油「アンチラストテラミLS-F」が日刊工業新聞 十大新製品（本賞）を受賞した。

この十大新製品賞は、日刊工業新聞社が優秀新製品の開発奨励と日本産業界の技術水準の向上を目的として1958年に創設した制度であり、毎年、その年に製品化、発売された新製品の中から選定され、表彰される。産業界での評価は高く、この種の賞としては現在、最も権威ある賞の一つとされている。

アンチラストテラミLS-Fは指紋除去性と長期さび止め性を両立し、生産性向上に寄与する独創性と、環境に対しての取り組みが評価され受賞となった。



賞状を受け取る荒木潤滑油総括部長

エネファームがライフスケープデザイン賞、 新エネルギーシステム合計で4件のグッドデザイン賞を受賞

2009年11月6日に東京ミッドタウンホールにおいてグッドデザイン賞表彰式が開催され、『ENEOS エネファーム』がライフスケープデザイン賞（経済産業大臣賞）、併せて『ENEOS 創エネハウス』『太陽光発電搭載船アウリガ・リーダー』『ルーフ・インテグレート・システム』が2009年度グッドデザイン賞を受賞した。

グッドデザイン賞は昭和32年に創設された国内唯一の総合的なデザイン表彰制度で、デザイン、機能、品質などはもちろん、暮らしへの質の高さが総合的に評価される。特に最近の審査では、「近未来の生活者の立場に立つ」という視点から「不安や絶望を癒し、励まし、未来への希望へと変容させる」こともデザインに求められている。

受賞の4件については、未来に向けた「新エネルギーのあり方の可能性を拓く」という点が高く評価された。



左から田中社員（当時ホームエネルギー部）
志村社員（エネルギーシステム開発部）



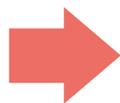
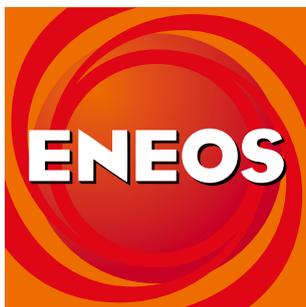
オブジェ型 太陽光発電システムを開発

新日本石油(株)は、EVチャージステーション・プロジェクト(経済産業省実証事業)の一環として、2009年11月、太陽光発電、蓄電池、急速充電器を組み合わせることにより、EVに太陽エネルギーを供給できる充電設備を開発した。その際、プロジェクトのPRを目的として、新たに開発・設置したものが、今回紹介するオブジェ型太陽光発電システムである。

この開発では、造形美の追及と太陽光発電モジュールの日射量(発電量の確保)を両立させることに成功した。太陽光発電が潜在的に持つPR性を最大限に活用でき、また、デザイン性・アート性の付加価値を創造できるこのシステムにより、「発電するパブリックアート*」としての新たな市場開拓をめざしている。次の施策として、ニーズの掘り起こし、クリエイターの育成およびデザインライナップ作成を目的とした「ENEOS 太陽光発電パブリックアートコンテスト」を開催中である。(2010年2月~5月)

* パブリックアート: 公共空間に設置されるアート作品(オブジェ・壁面アート等)

(エネルギーシステム開発部 システム開発2グループ 西野 圭太)



《デザインコンセプト》
「エネルギー」「力強さ」「躍動感」
「新時代」等を表した ENEOS
マークを立体的に表現



【太陽光発電出力】2.2kW(発電想定量:3kWクラス)